

5 障害者施策について

（1）障害のある人に対する支援経験

『している（計）』が2割

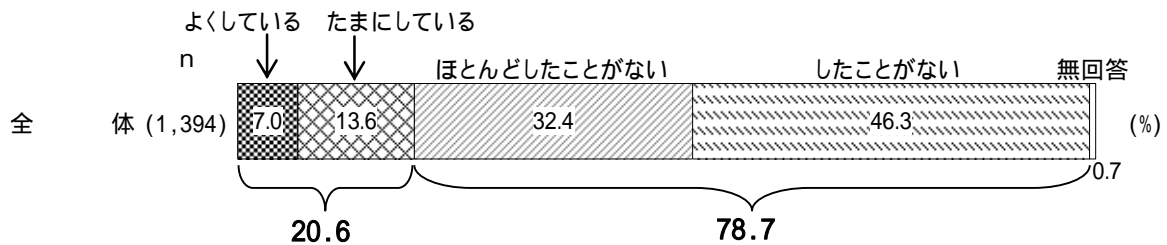
県では、障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくりをすすめています。今後の取組の参考とするため、ご意見をお聞かせください。

問21 あなたは、障害のある人に対する支援（ ）をしたことがありますか。

（仕事やボランティア等）（ は1つ）

ここでいう「支援」とは、例えば車いす利用者の移動の介助や聴覚障害のある人への筆談対応など、障害のある人の生活や活動への直接的な支援を意味します。

<図表5 - 1> 障害のある人に対する支援経験



障害のある人に対する支援をしたことがあるか聞いたところ、「よくしている」(7.0%)と「たまにしている」(13.6%)を合わせた『している（計）』(20.6%)が2割となっている。

一方、「ほとんどしたことがない」(32.4%)と「したことがない」(46.3%)を合わせた『したことがない（計）』(78.7%)は約8割となっている。(図表5 - 1)

【地域別】

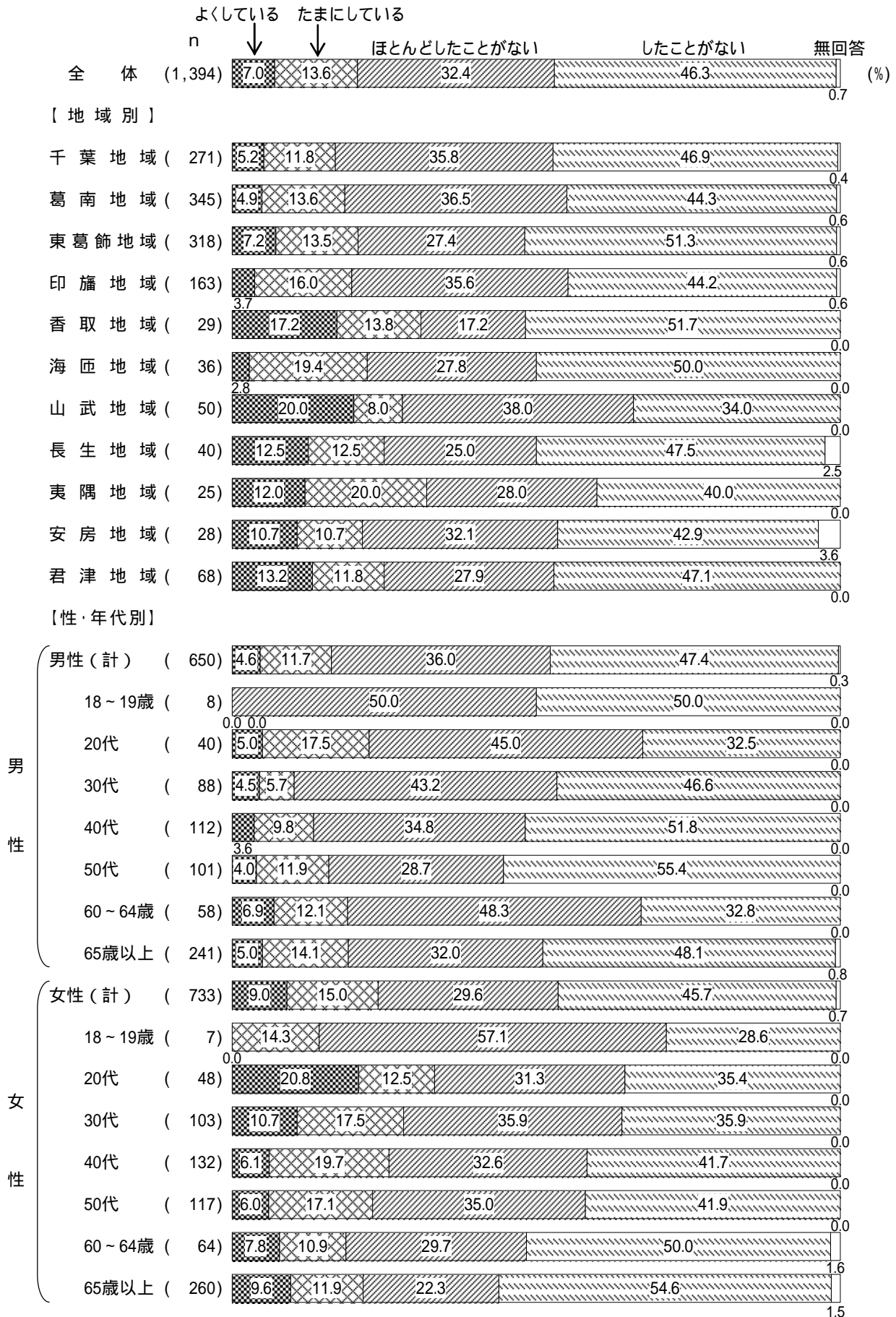
地域別にみると、『している（計）』は“夷隅地域”(32.0%)、“香取地域”(31.0%)が3割を超えて高くなっている。(図表5 - 2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『している（計）』は女性の20代(33.3%)が3割を超えて高くなっている。

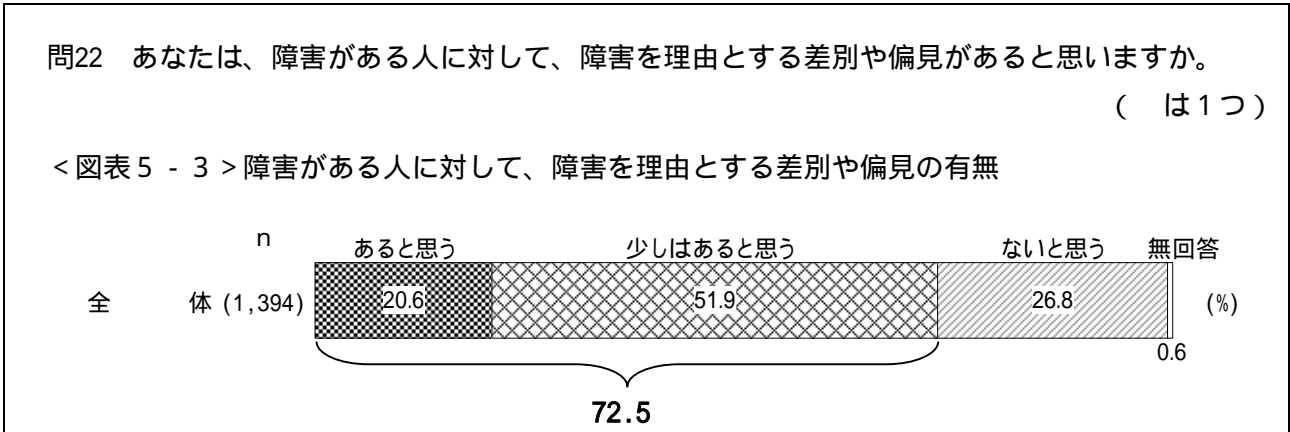
一方、『したことがない（計）』は男性の30代(89.8%)が約9割、男性の40代(86.6%)、50代(84.1%)が8割台半ばで高くなっている。(図表5 - 2)

<図表5 - 2> 障害のある人に対する支援経験 / 地域別、性・年代別



（2）障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見の有無

『あると思う（計）』が7割を超える



障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思うか聞いたところ、「あると思う」(20.6%)が2割となっており、これと「少しはあると思う」(51.9%)を合わせた『あると思う(計)』(72.5%)が7割を超えて高くなっている。

一方、「ないと思う」(26.8%)は2割台半ばとなっている。(図表5 - 3)

【地域別】

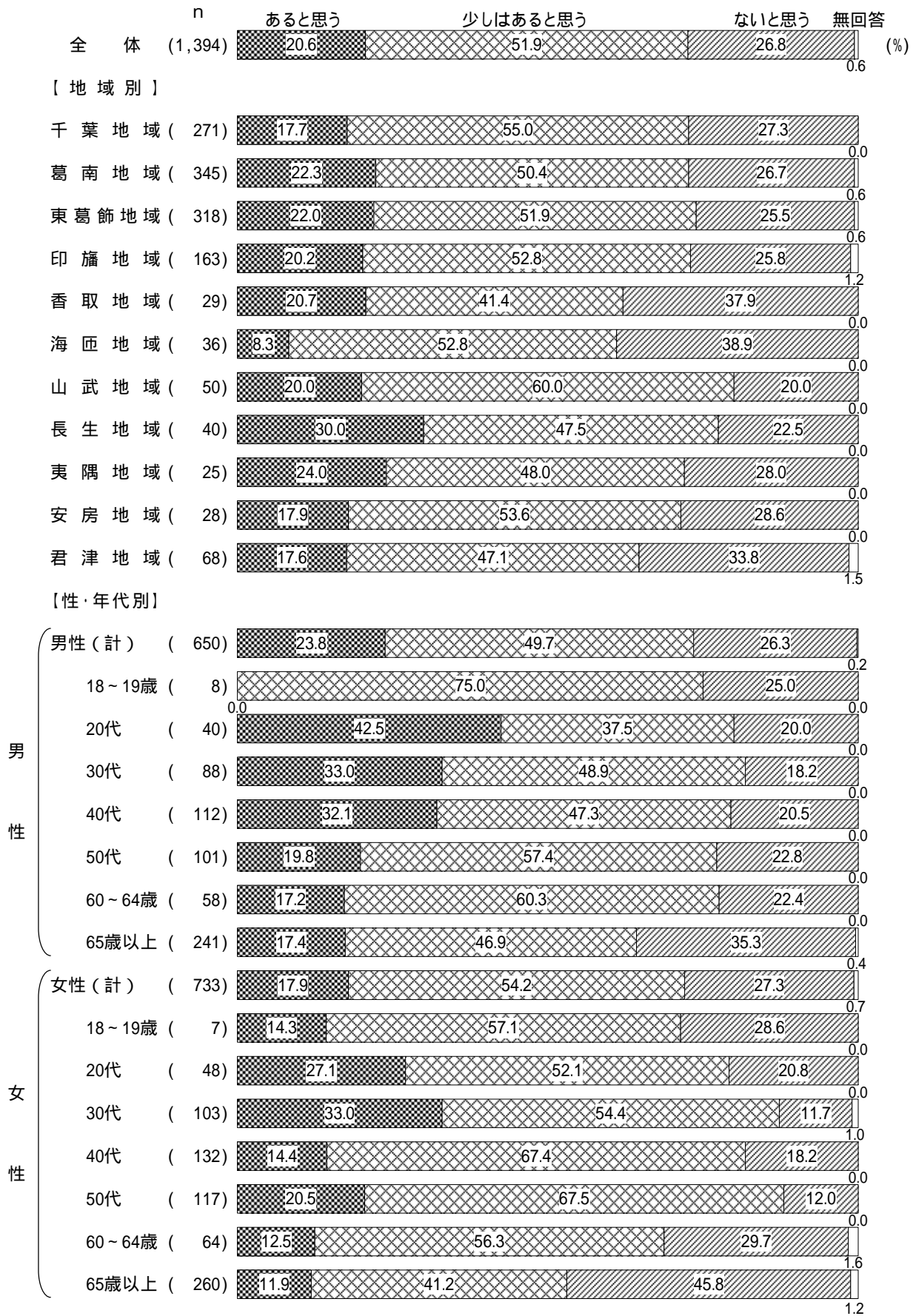
地域別にみると、「ないと思う」は“海匠地域”(38.9%)、“香取地域”(37.9%)が約4割で高くなっている。(図表5 - 4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「あると思う」は男性の20代(42.5%)が4割を超え、男性の30代(33.0%)、40代(32.1%)と女性の30代(33.0%)が3割を超えて高くなっている。

一方、「ないと思う」は女性の65歳以上(45.8%)が4割台半ば、男性の65歳以上(35.3%)が3割台半ばで高くなっている。(図表5 - 4)

<図表5 - 4> 障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見の有無 / 地域別、性・年代別

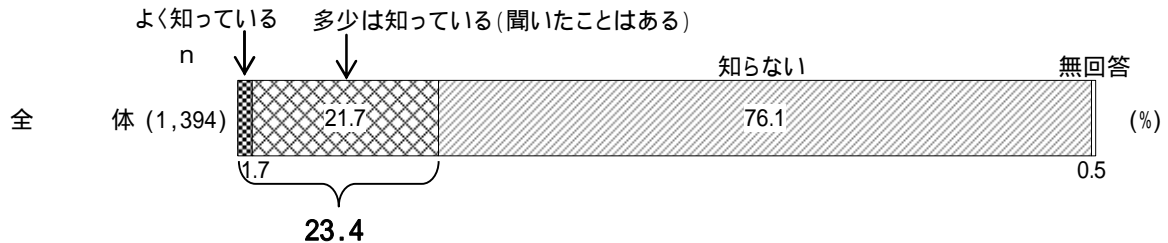


（3）「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

『聞いたことがある（計）』が2割を超える

問23 あなたは、障害のある人に対する差別をなくすための「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っていますか。（は1つ）

<図表5 - 5> 「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況



「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(1.7%)と「多少は知っている(聞いたことはある)」(21.7%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(23.4%)が2割を超えている。

一方、「知らない」(76.1%)は7割台半ばとなっている。(図表5 - 5)

【地域別】

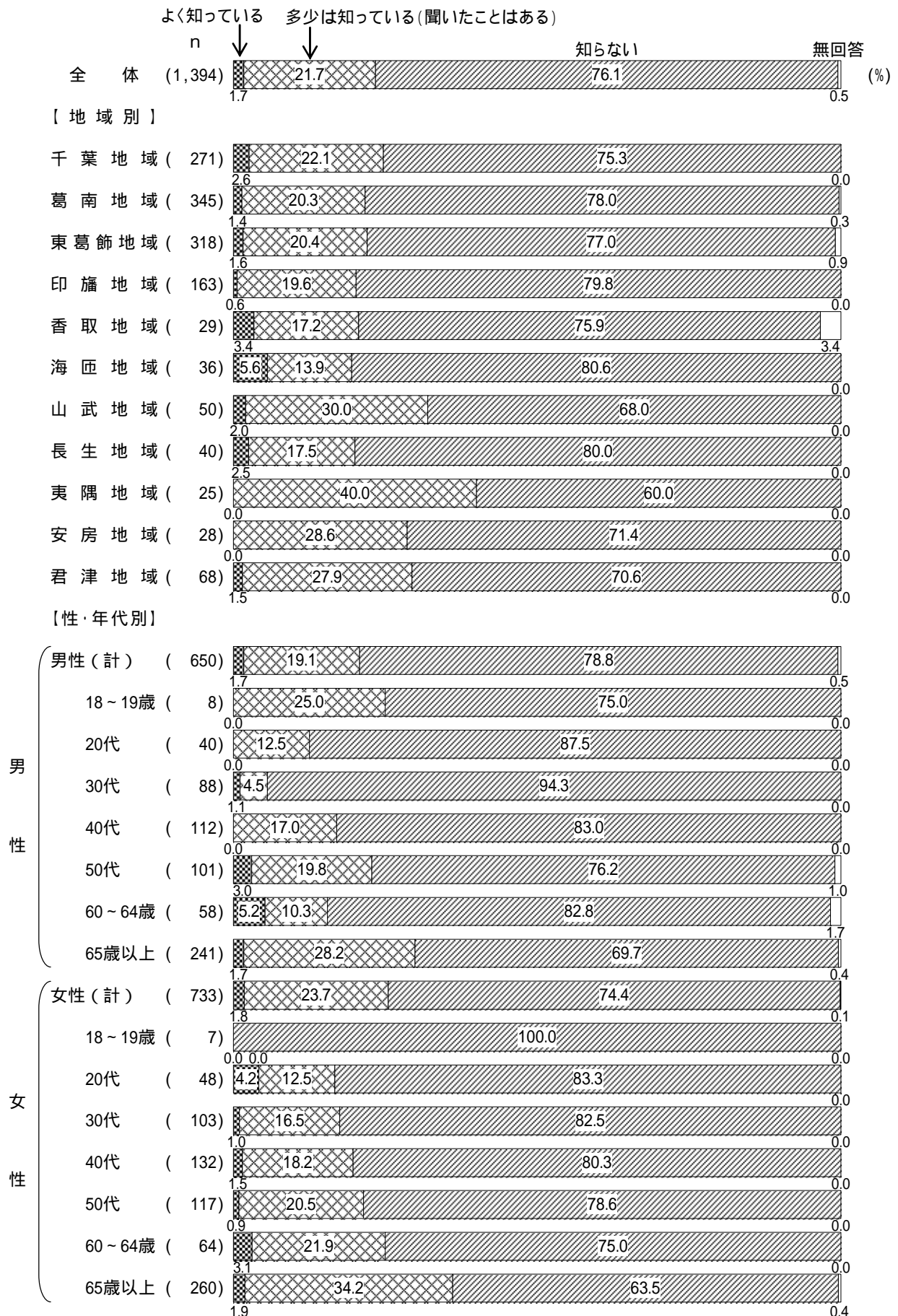
地域別にみると、『聞いたことがある(計)』は“夷隅地域”(40.0%)が4割で高くなっている。
(図表5 - 6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある(計)』は女性の65歳以上(36.1%)が3割台半ば、男性の65歳以上(29.9%)が約3割で高くなっている。(図表5 - 6)

<図表5 - 6> 「障害がある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

/ 地域別、性・年代別

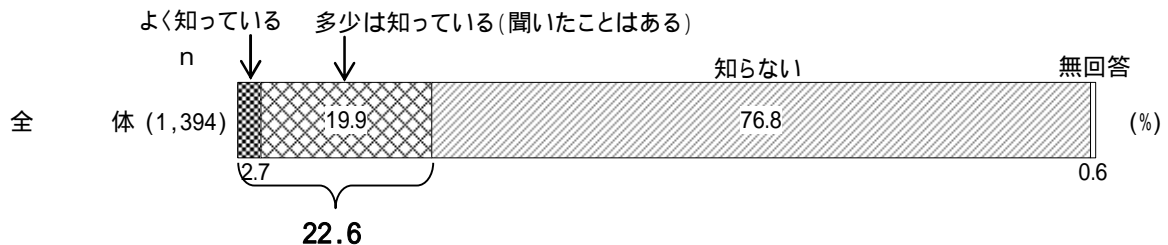


（４）「障害者差別解消法」認知状況

『聞いたことがある（計）』が2割を超える

問24 あなたは、平成28年4月から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）を知っていますか。（ は1つ）

<図表5-7> 「障害者差別解消法」認知状況



「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）を知っているか聞いたところ、「よく知っている」（2.7%）と「多少は知っている（聞いたことはある）」（19.9%）を合わせた『聞いたことがある（計）』（22.6%）が2割を超えている。

一方、「知らない」（76.8%）は7割台半ばとなっている。（図表5-7）

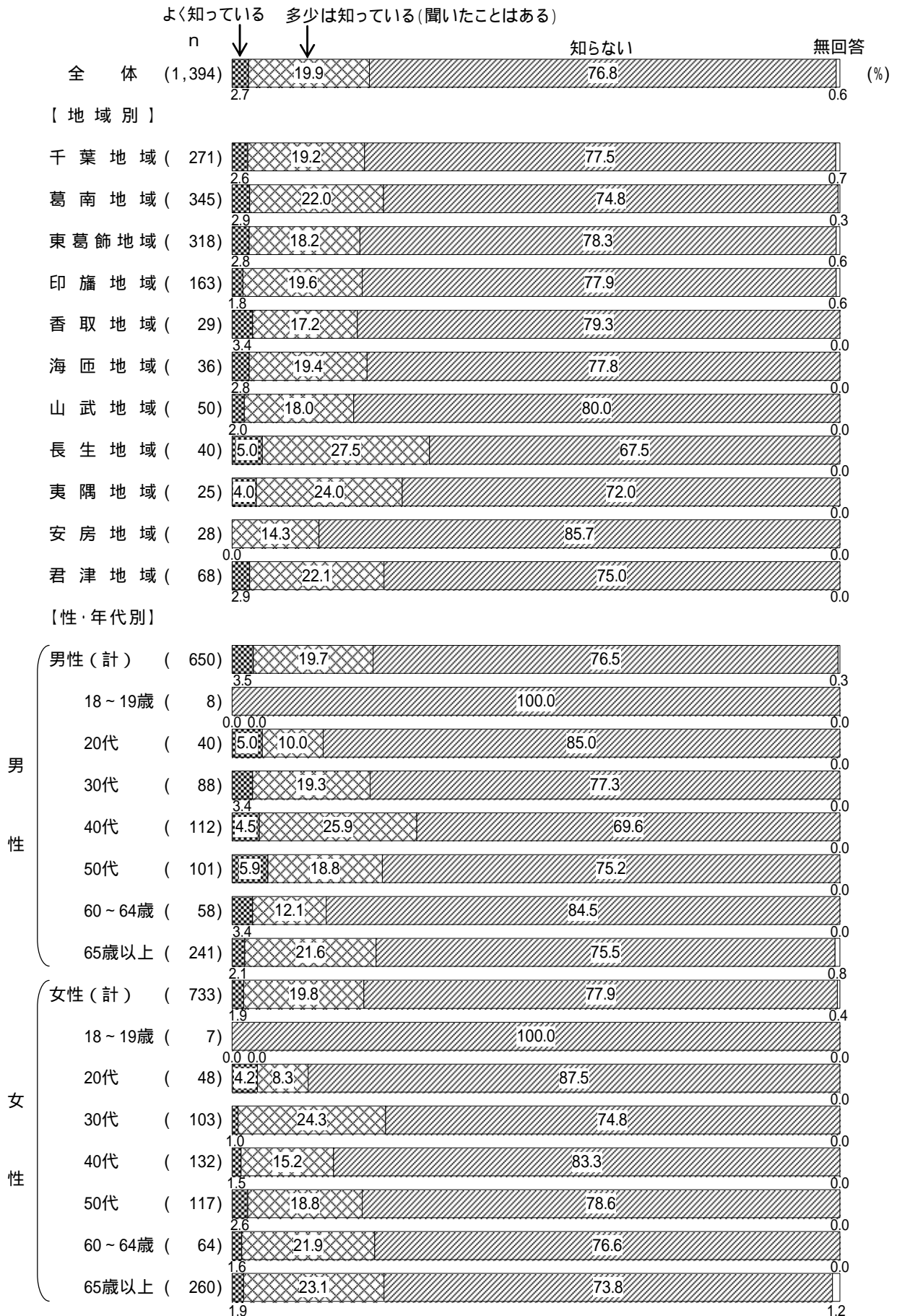
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表5-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は男性の40代（30.4%）が3割で高くなっている。（図表5-8）

<図表5 - 8> 「障害者差別解消法」認知状況／地域別、性・年代別



このほかに、「障害者施策について」やここまでの質問（問21～問24）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、164人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「障害者施策」の自由回答（抜粋）

障害に対する知識を一般的に広めることで差別は少なくなるのではないかと思います。

（女性、30代、印旛地域）

障害者の就労の枠を広げることが急務。

（男性、65歳以上、葛南地域）

身体障害を持った方に対する支援や施設の整備などは充実してきたように思えるが、発達障害等を持った方に対しての支援ももっと充実すべきだと思う。

（女性、20代、葛南地域）

施設で働いていますが、現場の人員確保、従事する人の能力の格差等、難しい事が多いです。待遇面でも、もう少し見合った給料を考えてほしい。

（女性、65歳以上、山武地域）

意外に住民が障害者と接する機会が少ない。イベント等を通じて機会を増やすべきである。パラリンピックもあるので、この機会に障害者への支援を更に考えるべきと考えます。

（男性、40代、夷隅地域）

何ができて何ができないのか、それぞれ症状は異なると思うが、具体的にどのような支援を必要とされているのかがわかりにくい。実例を紹介してほしい。

（女性、30代、葛南地域）

近所に、両親が亡くなってひとりで生活している、障害がある様子の方がいます。このようになった場合の生活方法がわからない。

（男性、65歳以上、海匝地域）

学校に車いすの子がいますが、トイレや階段などでとても苦労しています。校内のバリアフリー化をもっと進めて欲しいです。

（女性、40代、印旛地域）

かつて仕事で障害のある人に直接的な支援をしたことがありますが、それ以外ではほとんどしたことがありません。県の条例や平成28年4月に施行された法律も知りませんでした。これら条例や法律の普及啓発のための施策がますます重要と思います。

（男性、65歳以上、長生地域）

障害者に対する差別意識はないが、対応の仕方がわからず支援できない場合があるのではと思う。

（男性、65歳以上、印旛地域）